

# 教育研究業績書

2017年10月20日

所属：応用音楽学科

資格：教授

氏名：菅井 邦介

研究分野	研究内容のキーワード
現代音楽の作曲	作曲、編曲、音楽理論
学位	最終学歴
芸術学士	東京芸術大学 音楽学部 作曲科 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 双方向講義の取り組み	2012年04月～現在	単元毎の課題を設定し、その解答内容を学生自身に解説させる。その解説に対し、他の学生の意見や指摘を述べさせ、講義内容をより深く理解できる方法をとりにいた。
2. 音楽の原点を見つめなおすことを主軸に教育を行う	2010年	音の集まりが音楽であるという誤解をとき、音と息遣い、言語が音楽の原点であることを認識させながら、音楽の理解を深めることが狙いである。

<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 作・編曲法A	2016年04月～使用予定	応用音楽を専修とする学習者の対して、歌曲の作曲法における詩と旋律の関係、それを踏まえての作曲法、また合唱曲の編曲を通して合唱曲の作成までを、楽譜を分析しその模倣をすることから基礎的な作曲の技法の習得を目標として解説したもの
2. 作・編曲法Bの教材	2013年04月	合唱曲、小編成の器楽曲などの編曲法について、歌と楽器の演出や効果の違い、あるいは同じ部分はどこなのか段階的に解説し、それを実践に移すための実習課題を入れて校正したもの。
3. 作・編曲法Bの教材	2012年04月	作曲の基礎としての器楽曲の作り方の段階的解説を、歌曲の作曲法とどのように違うのか、あるいは同じ部分はどこなのか、構成による演出効果の違いによる器楽曲の主な形式に基いて解説したもの。
4. 作編曲法Aの教材	2011年04月	作曲の基礎としての歌曲の作り方の段階的解説を、詩と旋律の両面から行い、構成による演出効果の違いを解説したもの。
5. 旋律と和声	2010年09月	旋律と和声の学習を進める中で、音型とバスの関係に着目した説明を述べる。旋律と和音のあり方の応用が学べるように工夫した。
6. 旋律と和声	2010年03月	和声法の基礎をもとに、三和音、四和音と種類を増やして学習し、その和音の選定となるバスとソプラノの関係を述べる。特に旋律と和音のあり方の基本が学べるように工夫した。
7. 和声法 I	2009年03月	和声を学ぶ前提として音楽の基礎知識および楽典を学習し、その習得後、和声法の基礎を学習していく。楽典や音楽史の知識を持たない学生向けに作成した。

<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		

<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

<b>1 資格、免許</b>		
1. 1. 中学校音楽教員1級、高等学校音楽教員2級免許	1971年03月取得	
<b>2 特許等</b>		

<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		

<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

<b>1 著書</b>				
1. 著書 女声合唱曲集「New Wave」 -第1集-	共	1988年05月	J. L. C. C. 出版部 No.880 1	千原、大沢、菅井、桑原、澤内、牧野、葛西女声合唱曲を集めたもので、片川道雄の詩による組

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
				曲「白い地図」 1. 翼 2. のぞみ の2曲が収められている。(pp. 31～pp. 46)
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
1. カトルカール演奏会		2011年12月		リコーダー作品「誰が袖」の演奏
2. 定期演奏会		2008年12月		音楽学部の定期演奏会におけるクリスマスメドレーのオーケストラ伴奏による編曲
3. 鞍井博子先生退官記念演奏会		2008年07月		4手連弾によるピアノ曲「煌き」初演
4. 武庫川女子大学音楽学部定期演奏会		2007年12月		隅田川、夏の思い出、赤トンボ、雪、ふるさと、これら日本の歌5曲を「日本の四季」とするメドレー曲としてまとめ、オーケストラと合唱に編曲し、演奏した。
5. 菅井邦介作品のタベ		2006年10月		近年及び当該年度に作成した作曲作品の演奏会とその各作品を自分自身で解説した、作品演奏会。
6. 作曲作品の演奏会		2005年10月		毎年行っている作品発表の一環として、3本のリコーダーのための「風葉」を作曲し、演奏会で初演した。
7. カトル・カール リサイタル		2004年10月		リコーダアンサンブルのカトル・カールのために「融和」という作品を制作し、御影教会におけるリサイタル時に、初演した。
8. 木管楽器のための小品		2002年11月		
9. 4本のアルトリコーダーのための「東風」		2001年10月		
10. リコーダーカルテットのための「並列」		1999年10月		
11. 4本のバスリコーダーのための「誰が袖」 作曲		1998年11月		
12. リコーダーカルテットのための作品の作曲『笙』		1997年06月		
13. リコーダーカルテットのための作品の作曲『くつろぎ』		1997年04月		
14. リコーダーカルテットのための小品の作曲 標題「お話し」		1995年05月		
15. 本管アンサンブルのための作品集の作曲		1993年09月		本管アンサンブル小品集 Suite pour les boi (仏文) Suite for wood wind-instruments (英文)
16. ピアノ連弾曲 「いっしょに弾こう」		1992年06月		ピアノ練習者と指導者のための作品で、平易なメロディーをやさしい技法で演奏できるように考慮した作品。(演奏時間約5分)
17. リコーダー2本とギターのための小品		1991年12月		リコーダー2本とギター、打楽器のための作品で、クリスマスに因んだ旋律をメドレーで取り込みサロンでの演奏効果を考慮して構成したもの。(演奏時間約7分)
18. 小編成合奏団のための一章		1990年03月		小学校父母の会有志を母体とするアマチュア合奏団のための曲で、ピアノ・リコーダー・打楽器を中心とする。ポピュラーなメロディーを織り込んだ平易な作品。(演奏時間約6分)
19. 武庫川学院創立50周年記念讃歌		1989年05月		日下 晃学院長の詩による創立50周年記念讃歌で、ピアノ伴奏・オルガン伴奏・オーケストラ伴奏および斉唱・女声3部合唱の2形態・3伴奏のものがある。(演奏時間約5分) のちに詩が改作され武庫川学院讃歌となる
20. クラリネットとマンドリンのための一章		1988年11月		クラリネットとマンドリンという珍しい組み合わせの曲で、クラリネットの持つ多彩な音色と広い音域をできるだけ引き出しその背景にマンドリンの特性を生かした和楽器ふうの音質を配した作品。(演奏時間約17分)
21. 女声合唱のための組曲 「白い地		1988年05月		片川道雄の詩による詩集「白い地図」に収められた

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
図]				
22. 女声6部のための「風韻」		1987年06月		翼・のぞみの2編に作曲した女声合唱のための組曲、平易な曲想と親しみやすい旋律によって、現代音楽をイメージする事により現われる難解さをとり除いた作品。（演奏時間 約12分）
23. 創作発表 バリトンのための「旅人かへらず」		1987年06月		ボーカリーゼによる女声6部のためのアンサンブル曲で、各声部を楽器に見立てた発声、旋律動向に特徴がある。演奏時間 約8分 西脇順三郎の詩による組曲「旅人かへらず」（全3曲） I章 II章 III章から成り立つバリトンのための歌曲で演奏時間 約10分
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 旋律と和音の関係を分かりやすく記述した「旋律と和声」教科書の改訂版の作成		2011年		
2. 和声の基礎を分かりやすく記述、実施問題を加えた教科書「和声法」の改訂版の作成		2010年		
3. 室内楽作品の作曲。リコーダーアンサンブル作品による曲集の作成。		2009年		
<b>6. 研究費の取得状況</b>				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2011年9月から2012年3月	六甲山の歌 選定委員